



2024年10月8日 一般社団法人スマートシティ・インスティテュート 代表理事 南雲岳彦



エグゼクティブサマリー

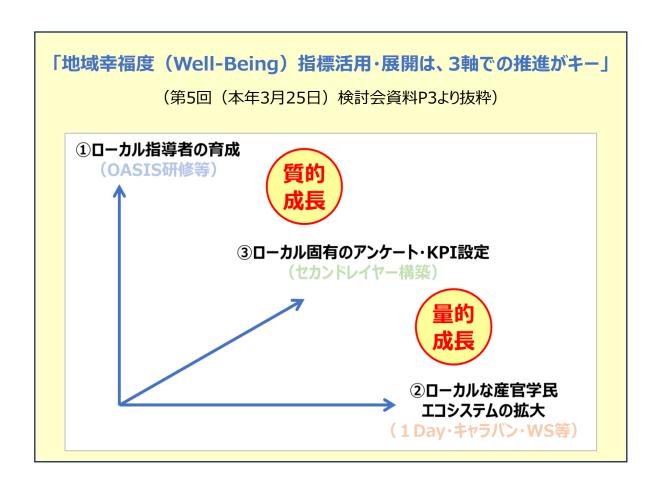
- 地域幸福度(Well-Being)指標活用・展開の軸の1つである「ローカル指導者の育成」として2023年度よりスタートしたOASIS研修は、2回転目、3回転目の研修を実施する自治体も複数となり、また産官学民連携に繋がる民間企業・大学による実施も増加。
- 同研修は、本検討会の第4回(昨年12月13日付)にて提言を行い、第5回(本年3月25日)より本格 実施の状況報告を開始したもの。上記の通り、研修の受講者の増加に伴い、今後は、新たに始まるオンライン コースやOASIS修了者が講師となっての研修など、ノウハウ展開が一段と加速する段階に入る。
- ■「□ーカルな産官学民エコシステムの拡大」を目的とした1 Dayセミナー、キャラバン・セミナー、ワークショップ(リアル/オンライン)も開催数・参加者数ともに順調に増加。加えて、教育現場を通じた指標活用促進の活動も実施回数を増やしており、自治体職員だけではなく、企業・NPO等の民間団体所属者や学生を含めた市民が参画できる機会も増加。全参加者数における民間・その他所属者の割合も高まってきている。
- 更なる指標活用推進に向けて、各種メディアを活用した情宣に加え、Well-Being指標を全国の自治体・企業・非営利団体・大学等に展開し、自律的な共助のまちづくりを推進することを目的として、デジタル化横展開推進協議会内に「Well-Being指標推進・展開プロジェクトコミュニティ」を立ち上げ済。指標を活用した政策等の横展開を官民のオープンな協議の中で検討を行う活動を開始する。

目次

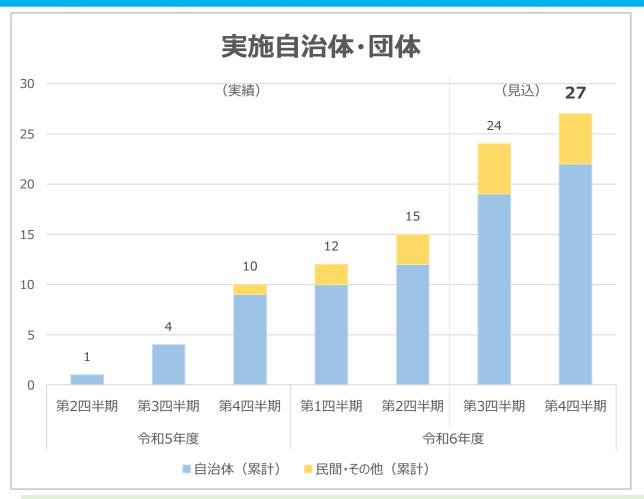
■ OASIS等研修実施状況

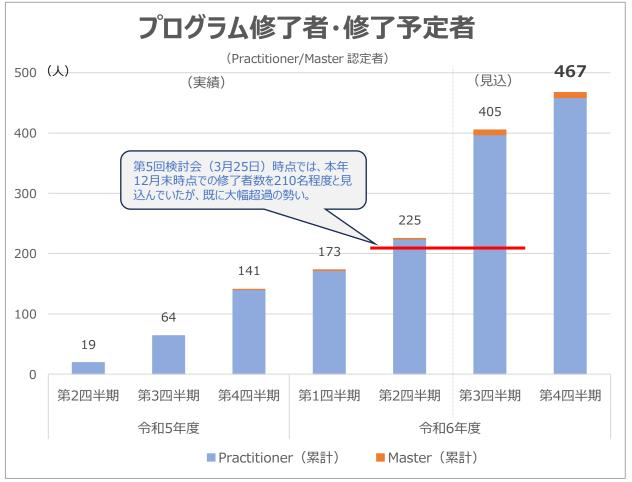
■ 指標活用促進·情宣

■ 渋谷区独自アンケートご紹介



既存の4コース(ガバメント、ビジネス、エグゼクティブ、マスター)に加え、新たにオンラインコースを開始予定。





実施団体 (開催日程順)

自治体:会津若松市、浜松市★、渋谷区、東広島市※、千葉市、加古川市※、山口県、前橋市※、鎌倉市、三島市、小田原市※、静岡県、姫路市、尾道市※、

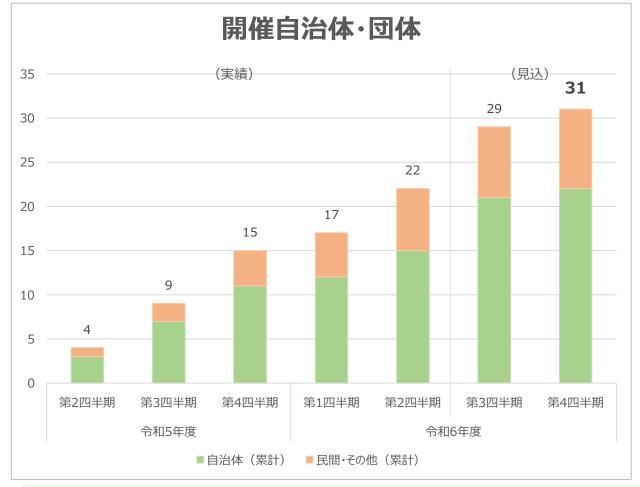
別府市、下関市、東京都(予定)、草津市(予定)、市原市(令和7年度予定) (※2回転目、★3回転目)

民間企業:東京海上日動火災、TIS、富士通、インテージ、地域創生Coデザイン研究所、アイシン、立命館アジア太平洋大学、静岡新聞社、三菱UFJリサーチ&

コンサルティング

1 Day研修、ワークショップ(リアル/オンライン)実施状況

1 Day研修、ワークショップ(オンライン/リアル)は、市民、NPO等団体など自治体職員以外の参加者も増加。





開催団体(開催日程順)

デジタル庁 1Day研修:浜松市、横浜市、会津若松市、兵庫県、石川県(予定。石川県、能美市、加賀市、小松市)

デジタル庁 キャラバンワークショップ: 小田原市、前橋市、東広島市

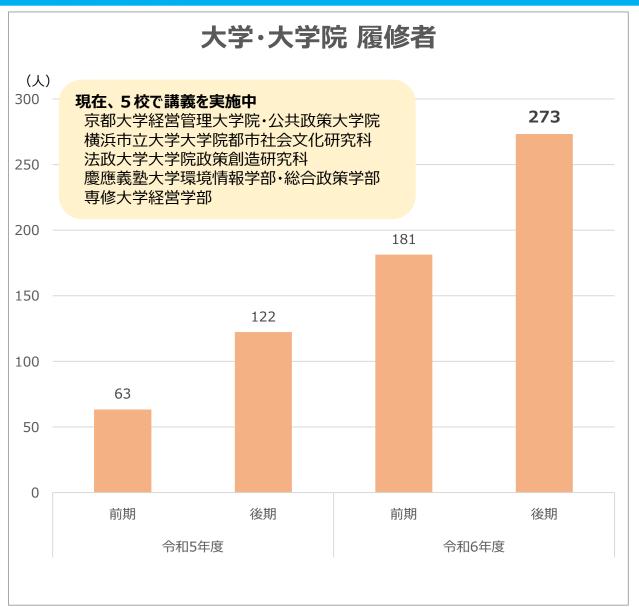
OASIS 1 Day: 世田谷区、鎌倉市官民研究会(鎌倉市、カヤック、ヤマハ発動機、江ノ島電鉄、東京海上日動火災等17社)、草津市、東京都若手議員、LIFULL、

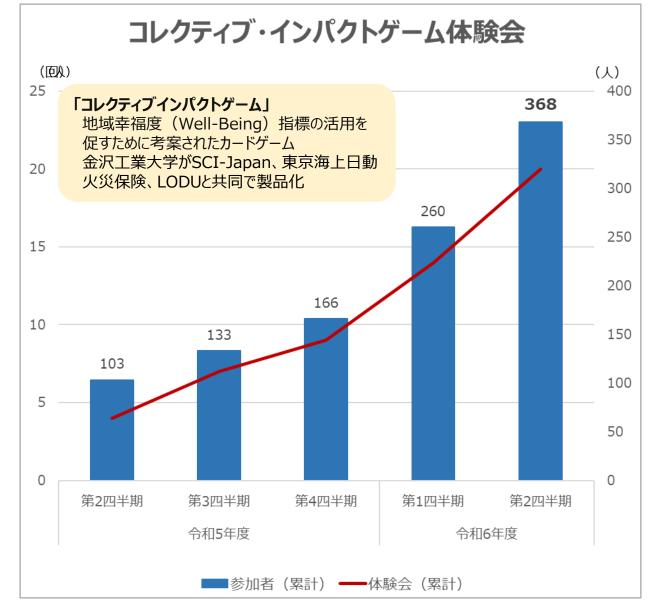
埼玉県横瀬町、富良野市、横浜市、横浜市議会(予定)、8市連携市長会議(横浜市、川崎市、横須賀市、鎌倉市、藤沢市、逗子市、大和市、町田市)、

日本ガス協会、黒部市福祉協議会、尾道市(2回)、行政デジタル改革共創会議(通称:デッカイギ)、日本ファシリテーション協会、SCI-Japan

大学・大学院での講義、ゲーミフィケーションを通じたウェルビーイング指標 活用教育

5つの大学・大学院での授業や集中講座を開講。金沢工業大学SDGs推進センターのカードゲーム体験会も各地で開催。





OASIS研修・講演活動、体験会の様子





「コレクティブインパクトゲーム」とは、 地域幸福度(Well-Being)指標の 活用を促すために考案されたカードゲーム。 金沢工業大学がSCI-Japan、東京海上 日動火災保険、LODUと共同で製品化。





コレクティブ・インパクトゲーム体験

OASIS研修、1Day研修、講演

SCI-Japan主催 City-Region MAP プログラム

地域経営人材の育成と受講者相互のコミュニティ形成を目的として、オンライン研修・ワークショップで構成した実践者向けプログラム (後援:内閣府、総務省、国土交通省)

◆スマートシティ戦略・リーダーシップ

「地域幸福度(ウェルビーイング)指標」(全3回)

SCI-Japan代表理事 南雲 岳彦

◆プレミアムコンテンツ

「Well-Being論」

慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科 教授 前野 隆司氏

「日本における場のWell-Being」

京都大学人と社会の未来研究院 教授 内田 由紀子氏

「人口減少・成熟社会のデザイン ~ AIシミュレーションと都市・地域」

京都大学人と社会の未来研究院 教授 広井 良典氏







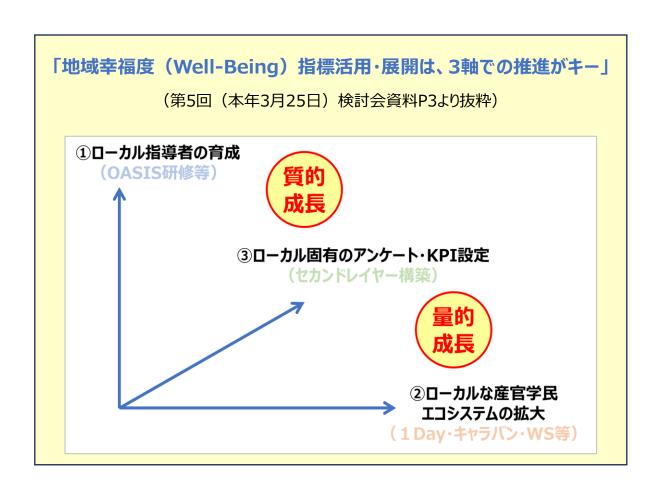


目次

■ OASIS等研修実施状況

■ 指標活用促進·情宣

■ 渋谷区独自アンケートご紹介



先行事例の共有~2024年7月24日開催/SCI-Japan特別フォーラム

「施策横連携によるデジタル田園都市国家構想の実現に向けて」~ 活用自治体事例パネル ~





千葉市 総合政策局 未来都市戦略部 スマートシティ推進課 課長補佐 長瀬 心香 氏 三島市 こども・健幸まちづくり部 こども未来課 課長 岩崎 淳子 氏 茨城県 境町役場 企画部 地方創生課 課長補佐 三宅 昭広 氏 デジタル庁 国民向けサービスグループ 参事官補佐 鈴木 ミユキ 氏



地域幸福度(Well-Being)指標/自治体パネル2

富山県 知事政策局 成長戦略室 ウェルビーイング推進課長 牧山 貴英 氏岩手県立大学宮古短期大学部 准教授/岩手県政策分析アドバイザー 和川 央 氏東京大学 丁学系研究科 都市丁学専攻 教授 小泉 秀樹 氏

日経チャンネルでアーカイブ動画配信中: https://channel.nikkei.co.jp/2407sci-japan/

先行事例の共有~2024年7月24日開催/SCI-Japan特別フォーラム

「施策横連携によるデジタル田園都市国家構想の実現に向けて」~ 活用自治体事例パネル ~



各種メディアを通じた情報発信/活動紹介

テレビ、機関誌、市の広報サイト、Web等各種メディアを通じた情報発信、活動紹介

時事通信社 LJAME



スマートシティのキーワード「ウェルビーイング」

国内外の都市で、スマートシティ化が進む中、現在、超重要と考えられているのが、個人の「ウェルビーイング」です。ひとことで言うと「身体的・精神的・社会的に満たされていて幸せだと感じる状態」ということです。急速に I o T やデータ活用が発展し、街自体がスマートに進化したとしても、ひとりひとりが置いてけぼりになってしまうと意味がありません。より暮らしやすくなるよう、街自体が個人にカスタマイズしようとしているのです。

NHK「漫画家イエナガの複雑社会を超定義」 (2024年4月13日放送)



市原市ホームページ「総合計画」 (2024年8月2日掲載)



TOYOTA CONIQ Alpha「みんなでデジタる!」 (2024年6月6日掲載)



時事通信社 iJAMP「DX オピニオン」

(2024.09.05-06 掲載)



テレビ大分、TOSオンライン (2024年7月16日放送)



世田谷つながりの場 「ウェルビーイング 〜見えないものを信じる力〜」 (2024年09月30日 YouTube 公開)

各種メディアを通じた情報発信/活動紹介

テレビ、機関誌、市の広報サイト、Web等各種メディアを通じた情報発信、活動紹介





3-1 指標研究

デジタル田園都市国家構想における「地域 幸福度(Well-Being)指標」

南雲 岳彦 ・ 報社団法人スマートシティ・インスティテュート 専務刑事

暮らしやすさと幸福感を可視化する地域幸福度 (Well-Being) 指標は スマートシティ化やまちづくりの合意形成に必要。Beyond GDPやサ ステナビリティなど世界の潮流と整合しつつ日本の文化にもつながる。

■地域幸福度 (Well-Being) 指標とは何 かったが、地域幸福度 (Well-Being) 指標では主

地域幸福度 (Well-Being) 指標は、市民の暮ら 位お上び都道府県単位で分析結果を無料公開した ものである。現在、この指標はデジタル田園都市 チャである。 国家構想における公式な指標として、日本各地で 政策目的の明確化や政策効果の測定のために活用 で進められているデジタル化について「スマー

は、市民の暮らしやすさ (Liveability) や幸福感 スマートシティやまちづくり政策は「政策手段」 題への対応には、市民参加や、市民との合意形成 として切り分けている点である。時としてこの目 の鍵を握る暮らしやすさや幸福感の向上度合いを 的と手段は混同ないし逆転してしまうことがあ 誰にでも分かりやすく可視化する必要があるとの しまうことがある。資料3-1-1に示すように、地 等とともに、スマートシティにおける暮らしやす に意識したロジックモデル構造となっている。

観と客観の両面で測定している点である。従来、 れるとともに、デジタル庁のウェブサイトにダッ

観指標 (アンケート調査) と客観指標 (オープン データを活用した KPI) を 24 のカテゴリーでベ しやすさと幸福感を主観と客観の画面で測定し、 アリングしており、この画面から評価することが 1つの統合的な指標体系として全ての市区町村単 できる仕組みとなっている。これら2つが、地域 幸福度 (Well-Being) 指標の基本的なアーキテク

この指標が生まれた背景には、スマートシティ トシティが導入されると、どのように暮らしやす この指標には、大きく2つの特徴がある。一つ さが向上し、どのように自分自身や家族、地域コ ミュニティの幸福感が高まるのか」が生活実態と (Well-Being) を「政策目的」と位置付け、一方の して思い浮かばないという課題があった。この課 り、政策は実施されたものの市民にはその効果が 認識の下、スマートシティ・インスティテュート 具体的な形で享受されないという課題が発生して が約4年半の間、会員の行政、企業、大学、NPO 域幸福度 (Well-Being) 指標は、この点を明示的 さと市民の幸福感に関する指標を構築してきた。 現在は デジタル田隣都市国家機相下で「地域を もう一つは、市民の暮らしやすさと幸福感を主 福度 (Well-Being) 指標」という公式名称が付き 政策立案や評価には客観指標が使われることが多 シュボード形式で一般公開されており、データも

148 SDGs 白書 2023-2024 W3 B SDGs の条理

特集座談会

持続可能なサステナビリティ社会の実現に向けて

当社は、社会の発展と自社の持続的な成長の両立を実践する「サステナビリティ経営」を掲げ、中期経営計画では重要課題(マテリアリテ ィ)の一つとして「未来志向の社会づくり」を設定、その課題解決に向けて「スマートシティへの対応」や「地域・産業活性化」に取り組

日本におけるスマートシティの第一人者である一般社団法人スマートシティ・インスティテュート専務理事の南雲岳彦さまを交えて、社会 課題の解決に向けた当社の取り組みや、未来への期待と展望についてお話ししました。



八千代エンジニヤリング株式会社 サステナビリティレポート

特別座談会

(2024年09月 掲載)

加速するスマートシティの中で



建設コンサルタント業界は これまで日本のインフラ整備やまちづくりを担ってきましたが 初在のスプートシティ分野では デジタ ルをはじめとした新たな価値やあらゆる企業が参入し、ボーダーレス化が加速しています。この流れは必然であり、未来の社会にはこ の多様さこそ必要であると理解している一方で、私たちのポジションはどこにあるのか、南雲さんはどう感じますでしょうか。



建設コンサルタント業界に限らず、日本中の企業や自治体などでも、実は自分のポジションが分からないという状況だと思います。例 えば、ある地域の個性や魅力を可視化しようとしても、市民の幸せや生活満足度が何によって成り立っているのかが、これまでは分か りませんでした。そこで一般社団法人スマートシティ・インスティテュートでは、「地域幸福度(Well-Being)指標」という新しい指 標を開発しました。この指標により都市や地域の個性や魅力といった特徴が数値で見えるようになりました。まちの個性や魅力もいく つかのパターンに分類できます。このようなデータやパターンを見ることにより、現在のまちのポジションや将来目指すべき方向性な

日本では、「心の豊かさ」と「モノの豊かさ」のうち、これまでは「心の豊かさ」が重要視されていたのですが、少し残念なことに、 最近は「モノの豊かさ」が優勢になってしまいました。また、社会や地域より個人を優先する傾向も見えてきました。リスキリングな どを通じて、生産性を高めつつ、心の豊かさと両立するような社会をもう一度目指していくべきではないかと感じています。

スマートシティの分野では、そもそも利便性や暮らしやすさ、心地よさといったリバビリティをテクノロジーでいかに高めるのかとい う議論を、これまでしてきました。しかし、それだけでは必ずしも人々の幸せに結びつかないという課題が露呈してきました。その課 題への解決策が「ウェルビーイング」、つまり市民の幸福感への注目ということだと思います。

市民のウェルビーイングが高まるまちづくりには、いくつかの手段がありますが、その一つが「イノベーション」であり、世界はイノ ベーションを生み出す研究者やアントレプレナーといったプレーヤーをどのように集められるのか、ということに意識を傾けていま

また日本には避けて通ることができない国土強靭化の課題もあります。リバビリティ(暮らしやすさ)を基本的な要件としつつ、その 上位概念にウェルビーイング(幸福感)、そしてその実現手段としてイノベーションとサステナビリティがあります。さらに、このよ うな構図が危機時にも揺るがないものとするためのレジリエンスの仕組みをどう進化させていくのかということが、日本の新しいスマ ートシティの姿になると考えています。これらの構成要素は、これまでは一体化したかたちというより、機能別ないし縦割り的に捉え られてきました。今こそ、それらを統合的に構築していくべきタイミングであると思います。



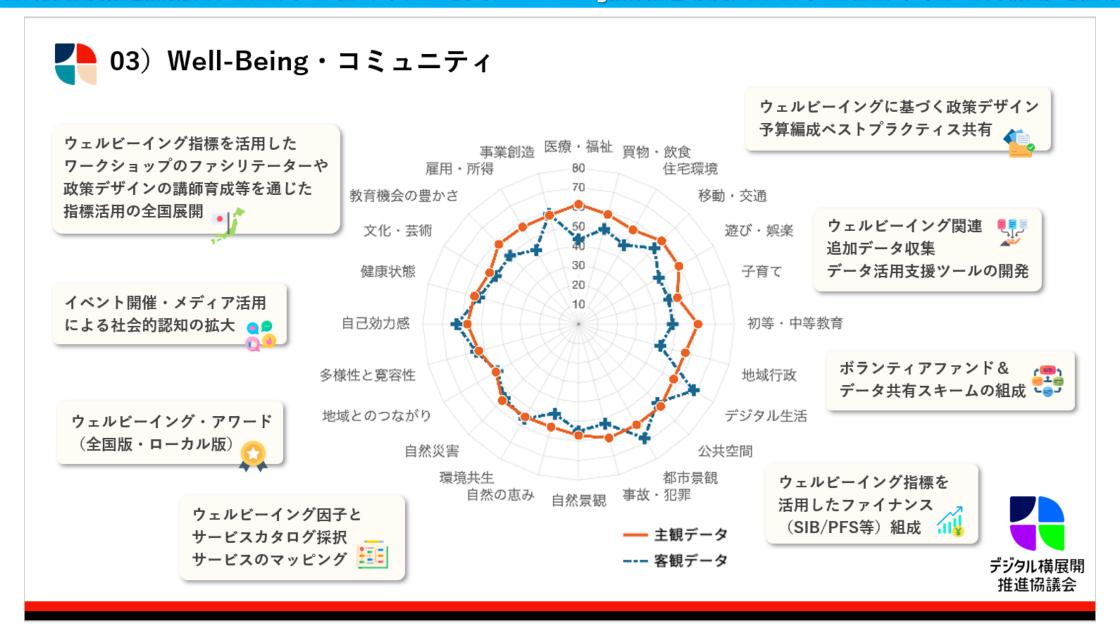
私が所属する技術側発研究所ではイノベーションを起こすことがミッションの一つですが、イノベーションには、「根像を大きく膨り ませること」が必要だと思います。今の技術に対して料来どのようなものが予測されて、社会はどう変化していくのかを担像して研究 を進めていますが、以前は夢のようだった世界が、今まさに実現しかけています。私たちが思い描くものは現実に形づくられていくの だと、実感しています。どのようなまちがサステナブルか、現在は予測できないことも多くありますが、大きなビジョンに向かって自 分が貢献できることから進めていくことが重要であると思います。

「SDGs白書2023-2024 持続可能なビジネスへの変革を目指して」

(2024年06月14日 掲載)

デジタル化横展開推進協議会 Well-Being指標推進・展開プロジェクト・コミュニティ

デジタル化横展開推進協議会のプロジェクト・コミュニティの1つとして、Well-Being指標推進・展開プロジェクト・コミュニティ(8チームで構成)を組成



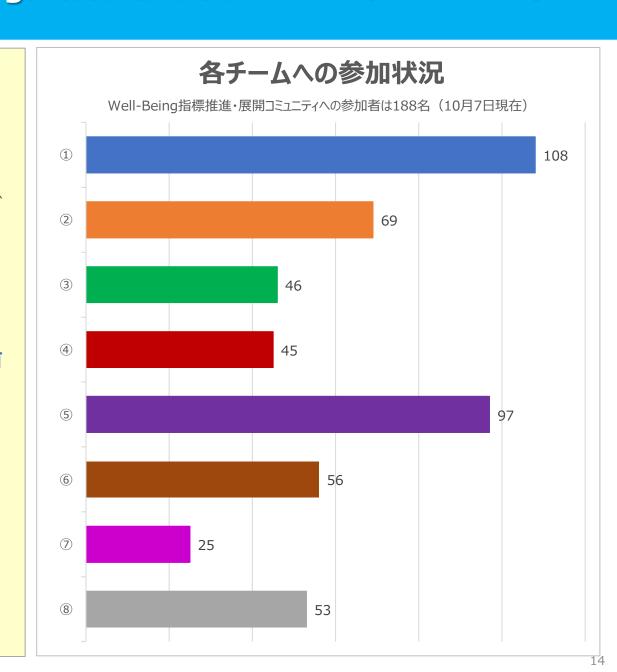
デジタル化横展開推進協議会 Well-Being指標推進・展開プロジェクト・コミュニティ

8つのチームの取組の目的、および達成するゴール

① ウェルビーイング指標を活用したワークショップのファシリテーターや 政策デザインの講師育成等を通じた指標活用の全国展開

「Well-Being指標活用ファシリテーター」、OASIS 研修講師の育成と全国派遣、ならびに大学・学校の授業等を通じ、指標活用の現場を全国拡大。

- ② イベント開催・メディア活用による社会的認知の拡大
 - 指標活用に関するアイデアソン、ハッカソン、ピッチコンテスト、講演会等の企画や、マスメディア、論文、書籍、ポッドキャスト、SNS、市の広報紙、社内報、オンライン合意形成ツール等メディアによる情報展開。
- ③ ウェルビーイング・アワード (全国版・ローカル版)
 ローカル版ウェルビーイング・アワードの横展開、および全国版ウェルビーイング・アワードの創設・運営。
- 4 ウェルビーイング因子とサービスカタログ採択サービスのマッピング 24 の因子からその向上策として紐づき得るデジタル・サービスを、デジタル・サービスから24の因子を 特定する双方向の検索機能を構築。
- 5 ウェルビーイングに基づく政策デザイン・予算編成ベストプラクティス共有総合計画・基本計画、まち・ひと・しごと創生総合戦略、年度の施策方針等のウェルビーイング指標を活用した政策形成、ウェルビーイング予算、ふるさと納税の活用等のベストプラクティスの収集と横展開。
- 6 ウェルビーイング関連追加データ収集・データ活用支援ツールの開発 指標に活用可能な(特に民間からの)追加データの収集、データの分析・可視化ツール、参加型GIS ツール、シミュレーションツール、ゲーム等の各種支援ツールの開発。 (AIや高度な統計手法を使ったデータ解析の手法開発も含む)
- 7 ボランティアファンド&データ共有スキームの組成 毎年実施される主観的幸福度のアンケートデータに加え、自治体・企業が独自調査を実施したデータの 活用やその二次利用を促進するためのファンド・スキームを組成。
- 8 ウェルビーイング指標を活用したファイナンス(SIB/PFS 等)組成 指標情報の政策効果測定を根拠とするSIB・PFS、ふるさと納税活用等のファイナンス・スキームを開発。 更に寄付・遺贈、クラウドファンディング等の手法の活用可能性を検討。

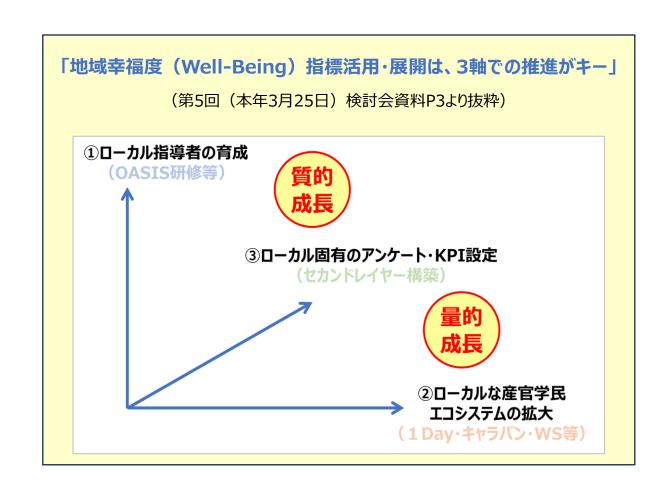


目次

■ OASIS等研修実施状況

■ 指標活用促進·情宣

■ 渋谷区独自アンケートご紹介



渋谷Well-beingアンケート調査の目的・概要

アンケート調査の目的

- 背景として、well-beingの政策づくりを学ぶOASIS研修を通じて、他自治体との比較して渋谷区の強み・弱み等の把握し、渋谷民の幸福度の仮説を立てた。
- 本調査は、上記の仮説を踏まえて、渋谷民のウェルビーイングの特徴、ウェルビーイングに寄与する因子、区民と来街者が渋谷区で感じるウェルビーイングの違い等を理解することを目的としている。
- 渋谷民のウェルビーイングを把握することにより、SSCA、渋谷区、その他関係者が渋谷民のウェルビーイングを向上する取組みを実施することに貢献することができると考えている。

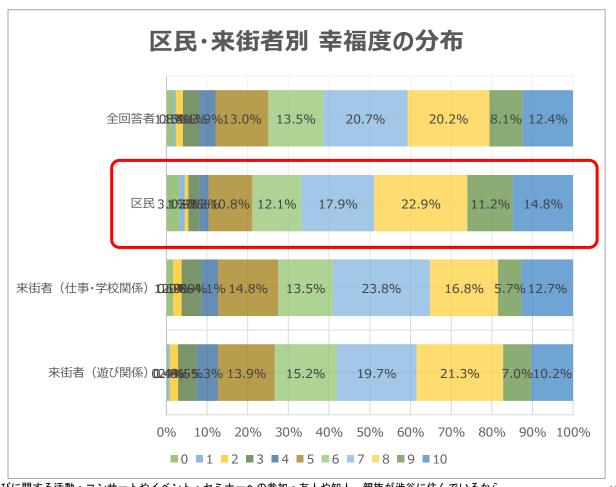
アンケート調査の概要

調査設計	 以下のグループについてそれぞれについて年代別に回答数30以上を目標として設計 渋谷区在住者 来街目的が「通勤・通学」の来街者 来街目的が「買い物、飲食、公園や公共施設の利用、・・・、その他」の来街者
調査手法	モニターへメール等による依頼の後、WEB調査画面にて回答していただくインターネット調査
対象者条件	20代~60代の男女
有効回答数	739
調査期間	2024年3月19日(火)~2024年3月25日(月)

渋谷区民と来街者の幸福度比較

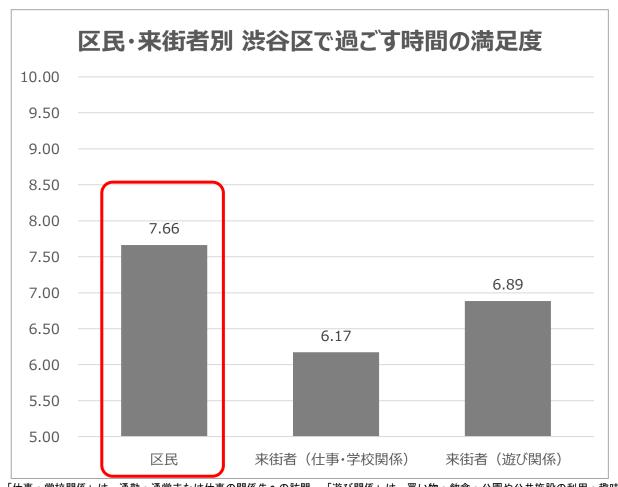
区民と来街者の幸福度を比較すると、区民の方が幸福度が高い。幸福度に関する回答の分布をみると、区民は、11段階のうち「8」以上の回答が多い。来街者は、<u>仕事・学校関係の目的で渋谷に来る人たちと、遊び関係の人たちで幸福度に大きな差は見られない</u>。

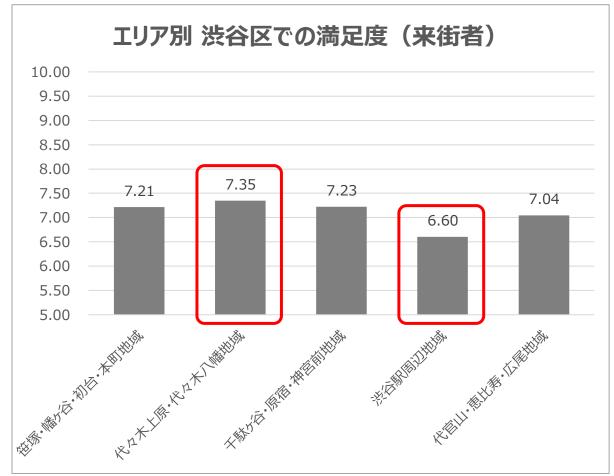




渋谷区で過ごす時間の満足度

「渋谷で過ごす時間の満足度」(Q11)においても、区民の満足度は来街者より顕著に高い。また、遊び関係の来街者が仕事・学校関係の来街者より満足度が高い。来街者の満足が一番高いエリアは「代々木上原・代々木八幡地域」。一方、来街者が多く集まっている<u>渋谷駅周辺地域は、過ごす時間の満足度が低い</u>。

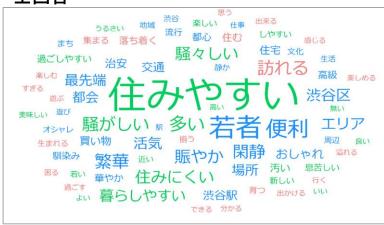




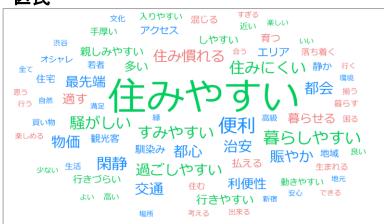
区民・来街者別 「あなたにとって「渋谷区」とはどのような街でしょ うか」

「Q12 あなたにとって「渋谷区」とはどのような街でしょうか」という設問に対しての自由回答では、「住みやすい」というキーワードが全体で目立つ。特に区民は「住みやすい」や「暮らしやすい」の回答が多い。一方、 来街者は「騒々しい」や「ゴミゴミ」等、都会の弊害についてもコメントしている。

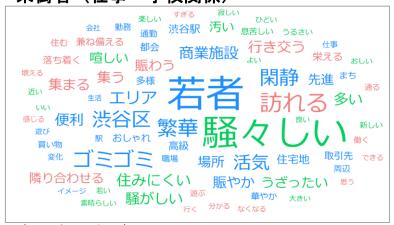
全回答



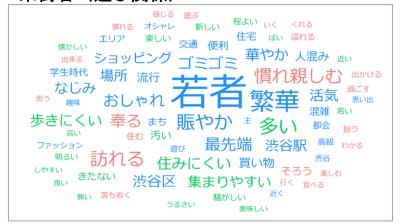
区民



来街者(仕事・学校関係)

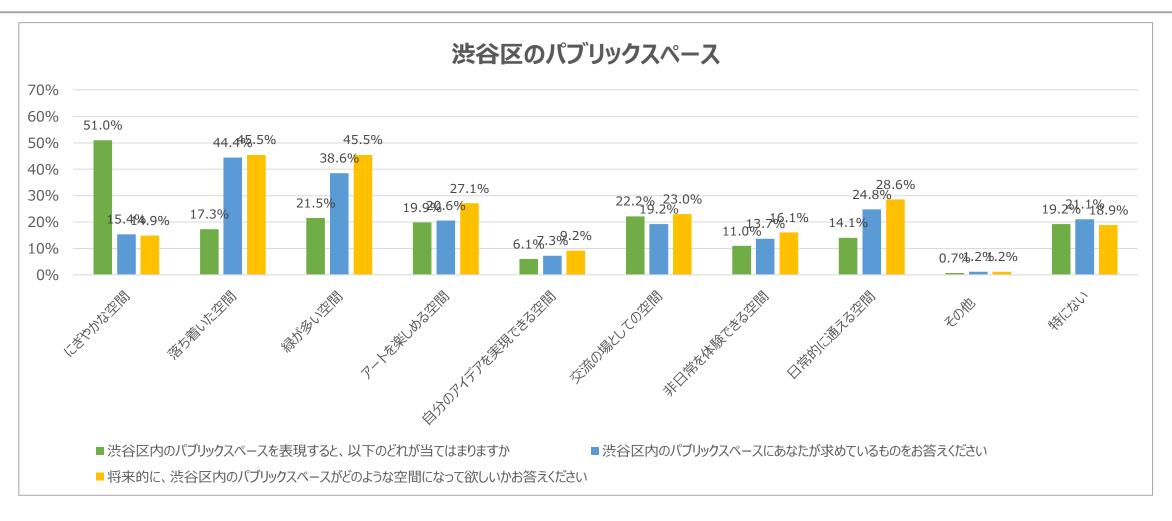


来街者(遊び関係)



渋谷区のパブリックスペース

Q16 渋谷区のパブリックスペースを表現すると、ダントツで「にぎやかな空間」が多いが、Q17・Q18 実際に求められているものは「落ち着いた空間」や「緑が多い空間」。他にも、「アートを楽しめる空間」や「日常的に通える空間」も現状と比較して求められている。



区民・来街者共通の渋谷区での満足度の因子ダイアグラム

「渋谷区で過ごす時間の満足度」にどのような因子が影響しているかをみると、様々な要素が影響している模様。 その中で、<u>特に相関が高い要素はまちの雰囲気等の「公共空間」、「健康状態」への影響、まちへの誇りや愛着</u> <u>等の「シビックプライド」</u>である。

Q6 幸福度

渋谷区での満足度

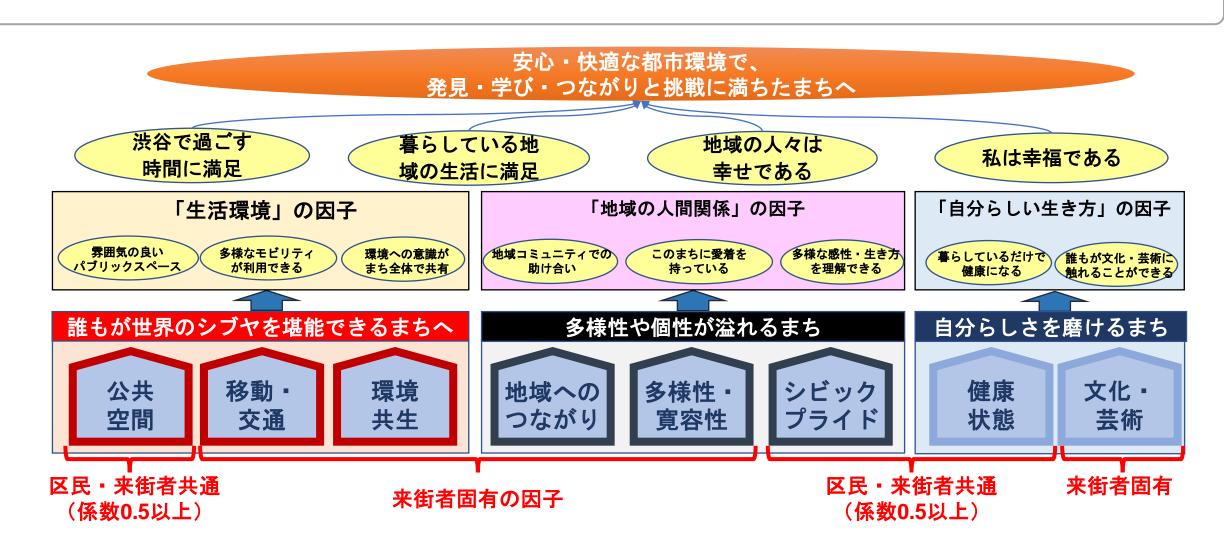
• Q11 渋谷区で過ごす時間の満足度

* 括弧内の数字は幸福度との相関係数 相関係数0.4以上 太字は相関係数0.5以上

設問	設問	設問			
このまちの雰囲気は、自分にとって心地よい	渋谷区では、行政サービスのデジタル化が進んでいる	災害時に、必要な情報・サポートを得ることができる			
まちなか、公園、川沿い等で、心地よく歩ける場所がある	仕事や日常生活の場でデジタルサービスを利用しやすい	渋谷区の行政は、地域のことを真剣に考えている			
目的もない街歩きや寄り道をすることがある	デジタルサービスの発展によって暮らしが良くなることが期待される	このまちに誇りを持っている			
渋谷区のパブリックスペースを活用した取り組み等に関心がある	地域の人とのつながりを感じる機会や場所があることは大切だ	このまちの住民の価値観に共感する			
日常生活で渋谷区内のパブリックスペースを利用している	このまちには、どんな人の意見でも受け入れる雰囲気がある	このまちをもっと良い街にしたい			
このまちは、文化・芸術・芸能が盛んで誇らしい	障碍者、高齢者、子ども連れの親等、全ての人が過ごしやすい	このまちの街づくりに積極的に関与したい			
将来生まれてくる世代のために、良い環境や文化を残したい	まちで過ごす時間は、自分の健康によい影響を与えている	このまちで暮してみたい・このまちに暮らし続けたい			
このまちには新たな事に挑戦・成長するための機会がある	環境への取組みが盛んである	このまちでの思い出がたくさんある			
渋谷区のスタートアップが生活を向上するサービスを創出する	このまちには、学びたいことを学べる機会がある	このまちに愛着を持っている			
このまちでは、新たな取組みやスタートアップに関わりやすいと思う	このまちは、防災対策がしっかりしている				

渋谷の目指すべき都市像(案)

公共空間、シビックプライド、健康状態等の幸福度に寄与する因子を整理した、渋谷の目指すべき都市像は、 OASIS研修で作成した都市像をもとに作成。



SSCAの取組みとの整理

- SSCAでは、各テーマに基づき、<u>地域課題の解決に向けたスマートサービスの創出に資する活動</u>として各プロジェクトを推進している。(下図参照)
- 「公共空間」をスコープにしているプロジェクトが多い傾向にある。一方で、「移動・交通」をスコープにしているプロジェクトは少ない傾向にある。

		移動	II - 	-m +	地域との	多様性と		文化
テーマ	プロジェクト	•交通	公共空間	環境共生	つながり	寛容性	健康状態	▪芸術
安心·安全	シブヤ・クールダウン			0			0	
	Shibuya USC		0		0			
	観光×防災				0	0		
環境	カーボンニュートラル・ストリート		0	0				
多様な空間活用	Let Me Know渋谷/渋谷POPUPS	0						0
渋谷カルチャー	IYO SHIBUYA		0					0
ウェルネス×都市空間	SHIBUYA WOMEN'S WELLNESS SCORE					0	0	
Well-being Research & Design	Well-being Research & Design	0	0	0	0	0	0	0

本資料のご活用に向けて

- ■本資料は、信頼できると思われる各種公開情報・オープンデータ等に基づいて作成されていますが、当法人はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- ■本資料に基づくご利用者様の決定、行為、及びその結果について、当法人は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、ご利用者 様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- ■本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず、出所:一般社団法人スマートシティ・インスティテュートと明記してください。